

神 殿 講 話

175. 8. 21

只今は、8月の月次祭を共々に勇んでつとめさせて頂きまして誠にありがとうございました。お話の当番に当ててくださっていますのでしばらくの間お付き合いますようお願い申し上げます。

柏手

日本の夏、金鳥の夏。まだまだ残暑厳しいですね。8月6日か7日が立秋でした。暦の上では秋ですので、正に残暑ですが、まだまだ暑くて水分や塩分を摂って体調の管理をしないとイケませんね。私は、最近、特に、今年は去年よりも暑いあと、毎年、今年が一番暑い今年が一番暑いと感じるのですが、これは歳の性でしょうね。そんな暑い中、夏のこどもおちばがえり大変お疲れ様でございました。どうぞお疲れのないようにして頂きたいと思います。

さて、私は今年6月で64才になりました。私の父は64歳でガンで出直しましたが私の今の年齢です。まだまだ若かったんやなあと思いますね。父は若い時からそんなに身体が丈夫な方でなかったから実年齢よりも老けて見られていたと思いますね。私の5歳下の弟は前から禿げてきまして、父の晩年と顔も頭もそっくりになってきました。私は、後頭部から禿げてきまして、先

日、奈良県ドッジボール協会主催の大会がありまして、優勝チームに表彰状を渡すのが私の仕事なんですが、そのとき協会の役員さんが後ろから写真を撮っていたんですね。その写真がドッジボール協会のHPに掲載されていたんです。それを見てビックリしました。黒い髪の毛の中にぽっかりと穴があいたような禿が、あああ、全国に恥をさらけ出してしまいました。それまでも禿は気になっていたんです。それでこの機会に禿がわからないように丸刈りにしたんです。ここらあたりで心機一転心を入れ替えて頑張ろう思ったこともありますけどね。みんなに若くなったなと言われます。高校生以来の丸刈りなんです。

父の話に戻りますが、今年のお正月に、私は思ったんです。今年は父が出直した年齢と同じ歳になるから、今年の誕生日が過ぎたら、それから先はのんびりと暮らしたいなあとね。下市町内に住んでる中学時代の同級生もたくさんいるし、高校時代の同級生たちとも仲良くやってるし、専修科時代の仲間とは、教会巡りと称して、1年に1回はあちこち旅行もしてるし、ま、のんびり暮らそうかと考えていたんですね。多くの先輩の先生方は元気に御用をおつとめですので、まだまだ老け込む歳ではありませんが、脳梗塞の病気も持っていることやし、家内は早くに出直して一人身になったことやし、子どもたちはそれぞれに生活してくれていることでもあるし、まだ、こどもに迷惑をかけたり世話になったりせんでもいいので、私はこれからは老後をのんびり

楽しんで暮らそうと考えていたんです。

しかし、そうは問屋が卸さない。そんなに、のんびりと老後を過ごすなんてことができないようになってきたんです。神様のなさることというか、成って来た理というか絶妙のタイミングでしたね。旬の動きなのかもわかりませんが。

昨年10月に、オーストラリア在住の亜季さんという方が、日本人なんですが、おさづけの理を拝戴したいと別席を運ぶためにおちばへ帰ってきました。1ヶ月滞在しておさづけの理を頂いて、オーストラリアへ戻るときに、来年は修養科へ入りたいので、その時は連絡しますとのことだったんですね。私は、はい、いつでもどうぞ。連絡してきてくださいね。と答えて、熱心な人やなと思っておりました。それからパソコンでメールを交換しながら丹精をさせて頂いていましたが、今年に入って、そうですね。そろそろ遺言状も書いて、いかに老後を楽しむかと考えていたときなんですね。メールの記録を見ますと2月10日でしたが、その人から「4月22日に日本へ帰ります。5月6月7月と修養科へ入ります。願書の提出をお願いします。7月31日にはこちらへ帰ります」とメールがきました。続いて、「修養科の費用はオーストラリアドルでいくらほど準備すればいいのでしょうか？持ち物と詳しい日程を教えてください。」とメールです。えーと、大人は一人12万円と子どもの分が8万円で合計20万。1ドル80円として、2500ドル。そのように返信しました。

そしたら「はい、わかりました。それでは修養科へ入ることを楽しみにして、しっかりおさづけを使わせて頂いておたすけに頑張ります」とのことでした。

彼女は最初は英語の勉強のためにオーストラリアへ行ったんですね。そこで現地のオーストラリア人と恋愛をして、やがて結婚して、混血の男の子が産まれました。向こうでは混血のことをミックスと言ってますね。しかし、夫婦は長続きしないで結局は事情がもとで離婚になったんです。オーストラリアに住んで今で6年になります。ミックスの子どもは3歳です。何事も決断は早い方で、男のような気性ですかね。外国ははっきりと自分の意思を伝えないといけませんので、例えば、コーヒーか紅茶どちらにしますか？と、尋ねられたら、私はつい、どちらでも結構です。と答えてしまいます。本当にどちらでもいいから、そう返事するんですが、外国はそれがダメなんですね。私はコーヒー。僕は紅茶、私は今はいらないとはいっきりと言わないといけないんですね。自分の考えをはっきり言えないといけないんですね。

それで次に来たメールなんですが、「私が修養科へ行っている間、私の部屋が空きますので、自由に使ってください結構ですから、誰かこちらへ布教に来てください。ベッドルームは広いから5人は寝られますから。家賃や電気代は結構ですから、自炊する食費だけ用意していただければいつまでいったださっても結構ですよ」と。そういうことを言い出してきました。「誰かオース

トラリアへ布教に行く者おらんかな？」私は学校時代の友人知人たちにも声をかけました。「誰かオーストラリアへ布教に行く人いませんか？」と、大教会長さんにも前会長さんにも声をかけて探してもらったんですが、残念ながら誰も行ってくれる人はいません。あああ、誰か行ってくれる人はいないかなあと毎日そんなことを思いながら生活していたんです。そしたらね、2月29日の夜10時ごろに、時差は1時間ですから、向こうは夜の11時ですね。オーストラリアの亜季さんから私の携帯へ電話がかかってきたんです。「会長さん、亜季です。ジェットスターの就航5周年の大セールで、今日夜の11時59分までに、ジェットスターのHPから申し込めば片道500円でオーストラリアへ来られます。往復1000円です。日本からしか申し込めないんです。パソコンで申し込んでください。このチャンスにこちらへ是非布教に来てください」と言ってきました。大勢の人に声はかけたけど誰も行ってくれる人はいません。海外布教はそんな簡単にできるものでもありませんので、そら、行ってくれる人がなくて当然やろうなあと思いました。しかし、この人は熱心に神様を求めて異国でおたすけに頑張ってくれています。毎日、おさづけの取次ぎに頑張ってくれている。そして今回は、修養科の費用や渡航費などでかなりの出費を覚悟で修養科へ入学しようと心を定めて、更に道を求めて通ってくれている。子どもの飛行機代は2歳までは要らないですね。ただなんです。しかし、3歳になったら大人と同じ費用がいるんです。一人通常往復約10万円までが相場ですから二人分だから倍になりますね。ま、瞬間にいる

んなことが頭の中を駆け巡りましたが、私はこの亜季さんからの電話で決心しました。よし、この機会に往復 1000 円でオーストラリアへ神実様をお祀りさせて頂こう。オーストラリアへ布教に行こうと決めました。そして、ジェットスターの HP から申し込みをしました。確かに片道 500 円でした。往復 1000 円でした。後はサーチャージ料と手荷物料、出国税、入国税などが別途かかってきますが最安値でした。飛行機のチケットを購入してからパスポートを取得してビザの申請をしました。そして、いよいよ 4 月 19 日に関空から夜の便でオーストラリア・ケアンズ行ってきたんです。ケアンズには翌朝 5 時に到着。亜季さんと快聖くんが迎えに来てくれていました。30 歳のときにハワイへ 1 週間ほど遊びに行っていて以来の外国です。もう飛行機に乗ってからは緊張の連続でした。エコノミークラスの 7 時間です。なにせ、私はブローケンイングリッシュですからね。めちゃくちゃの英語です。中学校と高校で習った程度ですから。いい加減なものですね。しかし、後は、分からないところは度胸でいかないといけません。

ケアンズとは、地図で説明しますと、ここですね。東海岸の北部です。熱帯性気候です。冬は最低気温が 12、3 度ぐらいで最高気温は 22、3 度。しかし、夏は毎日 40 度から 45 度が通常だそうです。

亜季さんの家に着いて、日本から送っておいたお社などを棚において、八足

や拍子木などを準備して、持って行った教服に着替えて、早速に、オーストラリアの信者宅に初めて神実様をお鎮めさせて頂き、初めてのおつとめをさせて頂きました。感激でしたね。本当に感激でした。

2日後には亜季さん親子は修養科へ入るために天理へ発ちますので、それまでにガソリンスタンドやショッピングセンターの場所、何かのときのために日本領事館ケアンズ事務所などの場所を教えてくださいました。そして、その夜は、単独布教師のスーザンさんのところで歓迎の夕食会をしてくださいました。スーザンさんは、40歳の時に主人と共に4人の子どもを連れて日本からオーストラリア・ブリスベンへ移民してきた人で、現在64歳の女性なんです。私と同じ歳だったんですね。10年前に事情がもとで離婚されているんです。離婚後、何かと悩んでいたとき、ブリスベンにある天理教のオセアニア出張所に電話をかけたことからこの道の信仰に入られた方なんです。天理教のオセアニア出張所開所して6年目、開所第一号の信者だったそうです。最初は教会本部直轄の信者さんでしたがいろいろと事情があって、現在は洲本大教会で、所属は河内長野市にある大典分教会です。スーザンさんは、10年前に修養科を出て、すぐにあちこちへ布教に歩いています。4人の子どもさんはそれぞれ独立して暮らしています。スーザンさんは一人身ですからスーツケース一つ持って、ブリスベンから飛行機で北へ2時間半のケアンズへ単独布教にやってくるんですね。離婚関係のことから裁判所から名前を変えるよう

に言われて、スーザン・サトウとどこにでもあるような名前にしたそうです。

さて、亜季さんが日本へ発った日から、私はこのスーザンさんの指導を受けることになりました。「会長さんの信仰が本物かどうか試験させていただきます」と言います。何を言い出すのかと思ったら、「私は昨日から腰が痛いのです。おさづけをしてください」と。私はおさづけをお取次ぎしました。そして、翌日、「会長さん、合格です。本物です」といいます。「腰の痛みが取れました」と言うんです。「いやいや、私は偽者ですよ。30年会長さんをやってますが、まだ何も分かっていません」と、答えて、その日からスーザンさんと共に布教に連れて歩いてもらいました。

中でも、サルベーションアーミーというキリスト教の教会が運営するリサイクルセンターがスーザンさんの布教拠点で、週に3日そこへ行きました。そこは教会の横に、大きな倉庫があり、古着や古道具、家具、食器や様々のものが山積されています。引っ越して行く人がここへ連絡するとトラックで引き取りに行きます。また、自分の車やトラックでいらなくなったものを持ってきます。全てドネーションです。寄付ですね。そこにはトラックから荷物を降ろす人や衣類、本、家具、電気製品、自転車、おもちゃ、食器などなどの置かれているところへ区分けする人、そして、区分けされたものの中から商品価値があるものをより分けてきれいに洗ったり拭いたりする人、それに値段を付ける人がいます。そしてそのリサイクルした商品を隣接の大きなお

店に陳列して販売しています。その売上金が職員の給料となったり難民の受け入れ資金になっています。ここで働いている人たちの殆どはボランティアです。私たちのようなボランティアと、難民として国が受け入れた人たちに国から援助金が支給されたり、政府から生活費を支給されている人はなんらかのボランティアをしなくてななりませんので週に何日はここで働きなさいといわれてきている人たち。アフガニスタンに妻や子どもを残してボートピープルとして脱出して国連で難民として認知されてオーストラリアへ来た人、ブータンから来た難民もいます。また、刑務所に入る代わりにここでボランティアとして働くように裁判所から言われて来ている人もいます。国籍が違う他民族寄せ集めで多くのボランティアが働いています。その中で、スーザンさんは2005年からここでボランティアとして参加しており、食器類のセクションで、商品の値段付けをしています。私は、スーザンさんの下でコップを洗ったり食器を拭いたりしていました。すると、スーザンさんが「おさづけです」と呼びにきてくれます。スーザンさんは、店に来たお客さんやボランティアの中で、身体の調子の悪そうな人や車椅子、包帯をまいた人を見つけると、

my name is suzan

I'm a healer but I do not charge any money Free,Free.

Do you have any problem with your body?

私は癒す人なんですよ。お金はいりません。身体のどこか調子の悪いところ

はありませんか？と聞いています。

肩が凝るとか腰が痛いとか答えると、

ok Could you tell your name and age? What is your name? How old are you? でもいいんですね。名前と歳を聞いています。向こうの人の英語は早口で名前も歳もはっきり聞き取れないんですね。これは慣れもあるでしょうが。

It will take 2 minutes, and I touch you, 3,3,3 times

2分間だけね。あなたのからだに3回3回3回障るねと言っておさづけの取次ぎが始まります。

Energy come from Universe, so that free

大自然からのエネルギーだから、お金は要らないのですよ。

God created human body.

Therefore, God can repair human body problem

I'll transmit energy.

とか、なんとか言って、おさづけを取り次ぐんですね。

私は、最初、英語でこれを言うのがうまく言えなくてね。困りました。勇気が要りました。でもこれも慣れてきます。

身上者かなと思えば、私も my name is haru

I'm a healer but I do not charge any money Free, Free.

Do you have any problem with your body?

と、言えるようになりましたね。だんだんと度胸がついてきました。

そんなこんなで、サルベーションアーミーはスーザンさんの布教の場所なんです。

お店の者も他の客の何も言いません。最初は、ここはキリスト教の施設ですから他の宗教のことは禁止ですと言われたそうですが、その内に、職員が体調を悪くしておさづけしてくれと行って来て調子が良くなったりしたので、今では、職員も進んでおさづけを求めたり、月、水、土がスーザンさんがボランティアに行く日と決めているので、その日にわざわざ合わせてやって来る客でおさづけを求める人もいます。ここから別席者が出たり、修養科生を修了した人もいるのです。正に、他宗教の中で堂々として私が私の布教の拠点と胸を張っています。

あ、ここでボランティアをするときにはサインをしないとイケませんので、私は haru と名乗ることにしました。外人は ru の発音が難しいみたいですね。

my name is haru です。

サルベーションアーミーへ行くとき以外は、外出するときは、必ずハッピーを着ていきました。

また、ある日、スーザンさんと二人で、フリーマーケット会場に行きました。広い広い会場です。お店を見ながら歩いていると、「はい、ここでよろづよ八首踊ります」といきなり言います。言われるままに肩からバッグを下ろして、二人でよろづよを踊りました。周りには多くの人があります。よろづよが終わると、スーザンさんは、会場の人たちに向かって大声で叫びます。路傍講演ですね。

I'm a healer but I do not charge any money Free,Free.

Do you have any problem with your body?

God created human body.

Therefore,God can repair human body problem

I' ll transmit energy.

何を言ってるのか全くわからない。私はただ大勢の人を前にしてニコニコ笑っているだけです。

そして、スーザンさんは、一人ひとりに、

I'm a healer but I do not charge any money Free,Free.

と声をかけて、おさづけを取り次いでいくのです。

この日は、よろづよ八首を5回踊り、おさづけを30人に取り次ぎました。私は歩いて歩いてもうくたくたです。でもスーザンさんは元気そのもの。「スーツケース一つで単独布教に来たのです」と豪語するだけのことはあります。迫力満点です。あなた方会長さんたちは、同じ信仰の人たちにだけおさづけ

をしていませんか？おさづけは、天理教でない人に取り次ぐのですよ。おさづけは効くのです。おさづけを取り次ぐのが布教だと思っているんです。おさづけを取り次いでおけば、縁があれば必ずまた出会いがあります。そのときにもっとゆっくりと神様のお話を取り次ぐのですと言います。

とにかく、歩いて歩いて、身体の調子が悪そうな人を見つけると、

I'm a healer but I do not charge any money Free,Free.

と始まります。ショッピングセンターの中でも、道路を歩いていてもどこでも誰にでもです。

あの国は、拜んでもらうことに抵抗が少ないようです。恥ずかしがらずにおさづけを受けてくれます。No money というとニッコリします。バス代の5ドルほど取って拜む healer が多くいるからです。おさづけを取り次ぐと、涙を流して喜んでくれる人もいます。かならずサンキュウと握手を求めてきます。とにかくオーバーアクションの国です。アボリジニ人以外は全て移民者ですから笑顔でコミュニケーションを取っている国です。移民者や難民など多くの人を受け入れている国。国土は日本の20倍、人口は、東京都と神奈川県の人人口ぐらいで日本の1/6しかいないのです。

大型のショッピングセンターで買い物をしたり、ドルもセントも慣れました。

ショッピングセンターで買い物をして、カゴに買ったものを入れて、レジに持っていきカゴのままレジの横に置きますね。Aコープでもオークワでもそうですね。最初は私は分からずに日本と同じようにレジに置いたのです。そしてレジのこんなふっくらしたおばさんがニコニコしながらカゴから品物を出すようなゼスチャーをするんです。そして、カゴが積まれたところを指をさすんですね。あ、そうか。品物をカゴから出してレジの前に置いてカゴはその積まれたところへ置くように言ってるんだと思ってそうしたらまたそのふっくらおばさんがニコニコ笑って、OKのサインを送ってくれたんです。後ろには多く人が並んでいました。私は後ろを振り向いてアイアムソウリーヒゲソーリーと言って手を振ると並んでた人も笑顔でOKOKと言ってくれました。何でも学習です。こうして一つ日本と違うところを知っていくのだと思いました。

必要なときは、亜季さんの車も乗っていました。運転免許証は日本のままで乗れます。私は日本領事館で免許証の英語の翻訳をしてもらい携帯していました。車線は日本と同じで車は左側通行で、どの車も右ハンドルの車ばかりです。それも殆どは日本の車ばかり。トヨタ、マツダ、スズキ、ホンダなどなど。しかし、亜季さんの車は、韓国製でかなり古いものでハンドルの右にワイパーがあり、右にウインカー指示器ですね。日本の車と反対なんです。真っ直ぐに走っているときはいいのですが、右折左折するとき、間違っ

操作して、ワイパーが動いていることがたびたびあって、あ、間違っている
と気がつくのです。右折左折のときは頭で考えながら運転しないといけませ
ん。空港まで4回行きましたし、Cityまでも2回、ボタニックガーデンやシ
ョッピングセンターへも行きました。空港の有料駐車場のお金の支払いの仕
方、Cityでのあちこちにある路上駐車場での支払いの仕方などもやりました。
もうこれも慣れましたね。

車の車検はありません。自分の車は自分で点検して、オイル交換も自分でし
ます。ほとんどは注ぎ足している人が多いです。車庫証明は要りません。道
が広いし、どこに停めてもいいんです。かなり古い車も多く走っています。
車の売り買いもそれぞれ個人でやっています。スーパーのアチコチに伝言板
みたいなものがあるって、ホームステイ引き受けますとか、車売りますとか、
散髪の出張しますとか、家を売りますとかいろんな張り紙があります。見て
るだけでもとても面白いですよ。ガソリンスタンドは全てセルフです。

道路は、めっちゃ広いです。もちろん信号機はありますが、大きな交差点で
は、信号機がなくて真ん中に大きな椰子の木が立っている丸いラウンドアバ
ウトと言って、交差点が円形になっていて、右側から車が来ていないのを確
認してその丸に入り、全て左まわりに入って出たいところで出て先へ進んで
いくようになっています。これは時間待ちの必要もなくまた信号機の電気代

も要りません。とても合理的ですね。最初は、えっと思ったのですが、これも慣れてきました。但し、どちらへ行くのか分かってないと道に迷ってしまいます。

オーストラリアは、もともとは原住民のアボリジニ人が住んでいたところで、1788年1月26日にイギリスから初めての移民がシドニーへやってきました。毎年1月26日は、天理教の春季大祭の日ですが、Independent Day（独立自立記念日）です。あの国の主たる方針は自立です。自立できる人を育てることです。16歳になったら親元から子どもは去って一人暮らしするか友達と同居するか、とにかく自立の一步が始まります。親と一緒に暮らさないので、親と一緒に暮らしていると、dependable（デペンダブル）付随者と言われる親子とも軽蔑されるそうなんです。ここは日本とは全く違う国です。いくつになっても親のすねをかじるような人はいないということですね。また、アボリジニ人以外は、全て移民者で構成されている国です。日本は難民を受け入れていませんが、オーストラリアは、国連から難民と認定されると国を挙げて毎年何人かの難民を国家予算で受け入れます。アフリカ、アフガニスタン、ブータンからの難民が目につきます。また、移民して来る人も多いそうです。パプアニューギニア、ニュージーランド、フィリピン、インド、タイランド、ラオス、日本などから多くの人が移民して来ています。また、この国では、裸足で歩いている人を多く見かけます。暑いから裸足で歩いている

人もいるでしょうが、靴を持っていない黒人も多いのです。せいぜいサンダルのような日本では昔アサブラといったようなものを履いています。移民者の国ですので、コミュニケーションが第一ですから、分からないことを尋ねると誰でも親切に教えてくれます。この国の人たちも最初は皆さんに聞いて今日があるのです。ありとあらゆる国から移民して来ているので、いろんな人を見かけます。特に黒人が多く目につきます。ケアンズは赤道に近く、熱帯地方ですから、特に近くからここへ移民した人が多いでしょう。

また、小学校 4 年生になったら授業で、アイスブレイクと言って、人を笑わせる話術の授業があるそうです。生徒は一人ひとり自分で考えて笑わせる話をしないとイケません。いやなことを言われても怒らないでそれを冗句で返すような学習です。とにかく会話を愉しむというか、ゆったりと時間が過ぎていくような感じがしますね。さりげなくユーモアや冗句などを言えるように勉強するそうです。

ま、いろんなことを教わりました。スーザンさんは、キリスト教や他の宗教と天理教の違いは、元の理だけですといます。だから元の理をしっかり勉強しましょうと言われました。現に、ビックリするほど多くの人の元の理に関する資料や本を持っていました。真剣に勉強しているのですね。

天理教の教えの素晴らしさに今更ながら気づきました。遠くの国に住み、命がけで布教に歩んでいる人に接して、そんな方々は、教えの要である「元の理」に精通しています。この信仰が唯一間違いのない最終の教え（だめのおしえ）であるという確信を持っています。それは「元の理」が理解できているからなのです。亜季さんの書棚にある教典をお借りして、第3章「元の理」を熟読し、親神様の思召である陽気暮らし世界建設の元のいんねん（人間は陽気ぐらしをするために創ってくださった）を再確認し、全てを整えて人間を創ってくださった喜びを味わって暮らすことが神に叶う生き方であると今更ながら教えの真髓を深めた感じでした。第3章の「元の理」にある文のうち「この世の元初りは、どろ海であつた。月日親神は、この混沌たる様を味気なく思召し、人間を造り、その陽気ぐらしをするのを見て、ともに楽しもうと思いつかれた。」から「この間、九億九万年は水中の住居、六千年は智慧の仕込み、三千九百九十九年は文字の仕込みと仰せられる。」の所謂どろ海口記と言われる部分をスラスラと言えるように暗記して帰りたいと挑戦しました。お陰さまで暗記することができました。これからはその内容をしっかりと理解できるように勉強したいと思っています。

また、現在の車社会であってももっと歩いて布教するようにこれも原点に戻らないといけないと気づきました。点から点の生き方が出来ても線になるような生き方ができないのではないかと思います。ケアンズでは実によく歩き

ました。毎日、神名流しをして、1時間、2時間は歩きました。歩いていると元気が出てきます。「せまい日本そんなに急いでどこへ行く」と交通標識にあるように、もっとゆっくりと大らかな気持ちで暮らしたいなあと思っています。

次に、海外布教の大切さを知りました。外国ではまだまだこの最後の教え（だめのおしえ）が伝わっていません。世界は広いです。国内はもとより広く世界に続く道を開拓することです。幸いにも住み込んでくださっている谷昭範さんは私よりはるかに英語に精通しています。ようぼくさんの知恵や能力をお借りして、もっと楽しく海外布教していく道を求めたいと思っています。奈良や京都には多くの外国人が観光にやってきます。そんな外国人に片言の英語でも話しかけて「神名流しひのきしん」をしたいと考えています。外国人はおさづけを取り次いでもらうことに抵抗が少ないことも教えられました。日本人のようにかたくなに断ったりしないのです。おさづけが取り次げなくてもパンフレットを渡すことぐらいはできますからね。

さて、私はオーストラリアへ行って、身体（身上）が元気であることに改めて有難いと感じました。脳梗塞になり早くも12年になりましたが、車も運転できるし、こんなに遠くまでも来ることができました。身体が元気であるということは、自分だけではなくて、家族をはじめ多くの人にも安心を与えて

いることに気が付きました。そして元気な身体は自分にだけではなくて、人様のためにもっと使わせて頂かないといけないのだと感じました。不自由な身体であっても喜んでおられる人も多くいますが、元気なのに神様のご守護を感謝しているかといえばそうでない人たちもいますね。元気であることを喜んで、その元気を続けることができ、より多くの人たちにも喜びを与えることができたならこんなに素晴らしいことはありません。月次祭は、元気にお借りしている身体に感謝し、こんな元気な身体をお借りしているのに、平素は自分中心に使うて申し訳ありませんとお詫びして、これからは少しでも人様のために使わせて頂きますと感謝とお礼を申して、人たすけの誓いをする大切な日です。

オーストラリアへ家内の写真を持って行きました。テーブルの上に置いて、毎日話かけていました。「こんなところまで来てるよ。おもしろいなあ。一緒に来られたら良かったのになあ」と話かけていました。家内はいつも笑っています。まさか、本当にこんなことになるとは誰が思っていたのでしょうか？成って来るのが天の理。亜季さんとの出会いからスーザンさんとの出会い、アリソンやマリアン、アリやエマニエル、ケイコさんやエリコさんクミコさんや多くの人に出会いました。土産物売り場で働いていた若い日本人女性が私のハッピー姿を見て、「あ、天理教や、私、小学生のときに天理へ行ったよ。廊下拭いたことある」と言った言葉が思い出されます。ケアンズは日本人が

一番多く住んでいます。日本からの観光客が一杯です。だから、英語が話せなくても大丈夫です。片言なら尚、大丈夫ですから是非みなさんも行って見てくださいね。

今、専修科時代の友人たちと相談して、ケアンズに布教の拠点を作ろうと具体的に話しを進めています。教祖百三十年祭に向かう時旬に、国内はもとよりですが、海外に向かっても神名を流すことができればと楽しみをもって勇んで通らせて頂きたいと思っています。

これから先はどのような人生になるのでしょうか？流れに逆らわずに流れていきたいと思っていますが…。でも、まだ老後を楽しむのは少し先になりそうです。父が言った言葉を思い出します。「アホになりや～」と。世の中の人々はみな賢く生きたい、偉くなりたいと思っています。これは競争率が高いですね。誰もがアホやと指さされる生き方などしたくないのです。父は言っていました。「アホは競争相手がいないからいつでもなれるのに、それがなかなかアホにはなれないのやなあ」と。朝から晩まで人のことばかり考えて、人様の幸せばかりを願って、おつとめにおさづけの取次ぎに頑張っつとめさせていたきたいなあと、父の出直した64歳を迎えたこのときに改めて、父の言葉を思い出して「アホへの挑戦」を目標にこれからも命をお借りしている間つとめさせて頂きたいと願っています。

ご清聴ありがとうございました。